府立福井高等学校
校長　藤原　秀彦

平成 24 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

これまでの普通科総合選択制の取り組みを総合学科へと発展させることをめざし、地域・中学校・保護者・中学生からのより信頼度の高い公立高校を創り出す。総合学科高校の特色を活かし、各系列での選択科目での学習を通じて各生徒の興味、関心に応じた幅広い知識、能力、技術を習得させるとともに、全教職員が学校の教育方針に基づいて、キャリア教育、生徒指導、人権教育を密接に連携させてきめ細かい指導、支援を行う。

１　必修科目の学習を通じて基礎学力を身につけるとともに、各自の興味関心に応じた多様な選択科目の学習を通じて、自立した社会人として生涯にわたって必要とされるさまざまな能力、思考力および豊かな感性を習得するなど、幅広い学力を身につけた生徒を育成する。
２　ドリカム(総合学習)や「産業社会と人間」を中心とするきめ細かいキャリア教育や、実習を通じてさまざまな職業につく多様なモデル像と出会うことで、将来に希望を持ち、自己の具体的なキャリアビジョンを設定して、その進路目標の実現に向けて努力する生徒を育成する。
３　各系列での選択科目の学習を通じて、さまざまな社会の課題の本質を理解し、その解決に向けて具体的に行動するとともに、それらの活動を通じて自尊感情や社会的有用感が育まれた生徒を育成する。

２　中期的目標

（１）確かな学力への取組み
○ 柔軟な教育課程を設定できる総合学科高校の設置をめざし、現在の取り組みを更に発展させ、多様な進路希望に応じた教育課程を構築する。各系列に設定予定の選択科目については生徒の選択状況や学校教育自己診断の結果等に基づき、既設科目の改廃や新たな科目設置を積極的に実施する。具体的目標として学校教育自己診断及び普通科総合選択制アンケートにおける学校満足度９５％以上をめざす。
○ 生徒の学習意欲を向上させるため、双方向性に富んだ魅力的でわかりやすい授業づくりを進める。生徒による授業アンケート等により不断に教員が授業改善に努めるとともに、指導教諭を核として組織的な授業改善を進め、教員間での相互授業見学、相互評価、及び他校教員との交流を含めた研究授業、公開授業を実施する。

（２）人権教育と生徒指導の一層の充実
○ 人権教育と生徒指導の連携を一層充実させることで、すべての生徒が安心して生活できる学校づくりをすすめる。その基盤として自分を大切にするとともに、自立心・規範意識を育てることにより、基本的生活習慣を確立させる。一方、生徒指導上の問題にたいしては、すべての教職員が適切かつ毅然とした指導を行うように指導方法について教職員の共通認識を深め、チームワークを活かして対応する。また、不登校の兆候の見られる生徒や発達障がい等の個別の支援が必要な生徒については、個別の指導計画を作成し、様々な機会にカウンセリングマインドをもって対応し、中学校、保護者や外部の専門機関等と連携しながら状況改善に努める。具体的目標として、３年間で遅刻件数、懲戒件数、不登校生徒数の２０％の減少をめざす。

（３）地域連携、小中高連携の強化
○ これまで福井高校が培ってきた小中高連携、地域連携のネットワークを一層発展させ地域の小中学校、地域住民にとって敷居の低い「開かれた学校」づくりを推進し、地元に根づいた学校づくりを進める。そのため、新たな学校協議会及び学校教育自己診断を活用するなど、保護者や地域住民のニーズを反映した学校改善に取り組む。同時に学校からの情報発信を積極的に進める。さらに「豊川教育コミュニティネット」の一員として、他校の教職員とのネットワークを一層強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成２４年１２月実施分］	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ・今年度は「双方向性に富んだ魅力的でわかりやすい授業」をテーマに取り組んだ。エリアや選択授業については７４％と肯定的な回答が多いが、全体では「教え方に工夫」などが若干数値が上がったとはいえ６２％とまだまだである。ただ、授業アンケートの結果や授業観察を通じてみると、経験年数の少ない先生が、積極的にこのテーマに取り組んでいる。 【生徒指導等】 ・「個々の生徒を深く理解すること」「チームワークで生徒相談を推進すること」「基本的生活習慣の確立と規範意識の確立」をテーマに取り組んだ。「協力して生徒指導」は７０％台をキープし、「いじめなどへの真剣な対応」がやっと６０％を超えた。 ・キャリア教育は本校の大きな柱の一つであるが、「将来の生き方について考える機会がある。」はさらにアップして８２％となった。また「授業などで人の生き方について考える機会がある。」もさらに伸びて６５％を超えた。 ・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生」の項目は５３％にとどまっており、教員集団として生徒理解の姿勢をカウンセリングマインドに基づくものにしていく方策を検討する必要がある。 【学校運営】 ・「視聴覚機器やコンピュータの活用」については、かなり伸びて７０％を超えた。 ・「他の先生が授業を見学」は２０％以上伸びた。この成果は次年度にも引き継いでいきたい。	第１回（１０月１５日） ・２４年度学校経営計画について 「双方向性に富んだ授業」の指標としてＳ－Ｔ分析を活用してはどうか。 ・本年度の取り組みについて 自転車マナーなど良くなっていることは確かだが、一部に課題はある。 家庭学習の習慣づけをどうするか、検討が必要。 部活動の活性化に向け、アルバイトの制限は無理か、難しいところだが。 ・今後の福井高校のめざす方向について（総合学科、詳しくは次回に） 今後も、より一層地元との連携を密にしてほしい。 幼・小・中・高・大におけるつながりを持ったキャリア教育が重要 地元の歴史を教えることで、愛着心を持たせることも必要 ・その他 保護者の過保護による自立心の欠如がみられる。 第２回（１２月５日） ・総合学科に向けた取組みについて 時間割がさらにバラバラになると、「共に学ぶ」観点で問題はないか？ 学校行事の充実や意欲的な授業、コミュニケーションなど新たなものも生まれる 資格取得などで特色となるものを作ってはどうか スモールステップを踏んでステップアップを図ることが重要 地域に開かれた部分を大切にし、地域人材の活用を検討されたい。 進学対応をさらに検討する必要があろう。

府立福井高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力への取り組み	（１）双方向性に富んだ魅力的でわかりやすい授業 ア、研究授業・職員研修 イ、授業アンケートの活用 （２）多様な学習機会の提供 ア、国際理解教育 イ、地域の施設での実習 ウ、外部機関と連携した土曜講習 エ、基礎力のフォローアップ	（１） ア、指導教諭による師範授業と研究協議・若手教員を中心に公開授業を行い相互に見学を行う。 イ、生徒から授業アンケートを行い授業改善に活用する。 （２） ア、韓国語の授業、韓国の姉妹校との交流、アメリカの姉妹校との交流の推進。近隣の大学の留学生との交流。 イ、保育所、幼稚園、老人施設、福祉施設などでの実習を通じ人にやさしい人間教育の充実。 ウ、３年生対象で土曜日に予備校講師による実力養成講座の実施。 エ、定期考査前に補習を実施して基礎学力のアップを図る。 （３）上記の取り組みを進めながら、総合学科への移行に向け教育課程を再編成する。	模範授業は年度当初に実施。新採教員は全員が研究授業をする。 年１回実施し分かりやすさ７０％以上 韓国とは毎年相互交流、アメリカとは２年に１回相互交流を実施する 保育実習、介護実習、ボランティアを体験 年間２０回実施 各定期考査に実施し学力不振の留年者の減少	（１）ア、若手教員を対象に模範授業を実施。新採教員は全員が研究授業を実施。授業後の研究協議も活発で中身も濃いものとなった。（◎） 授業アンケートは分析途中だが、「双方向性に富んだ授業」は新採を含む若手教員を中心に意欲的に取り組まれてきている。（○） （２）ア、韓国の姉妹校を夏に訪問、スタディツアーを実施したが、韓国からの来日は諸般の事情で中止となった。アメリカ・ミネアポリスの高校への体験入学は３月に実施予定（○） イ、保育実習、介護実習等は授業のみならず、体育祭などでも実施し目標を大きく上回った。（◎） ウ、土曜講習は予定通り実施（○） エ、補習も考査前を中心に実施し、留年者の減少が見込まれる。（○）
安全で安心な学校作り	（１）基本的な生活習慣と規範意識の確立 ア、遅刻指導の徹底 イ、服装指導の推進 ウ、授業規律の確立 （２）生徒相談体制の充実 ア、職員研修の実施 イ、精神科医との連携 ウ、個別の指導計画 エ、教育相談の活用の周知	（１）朝の職員連絡会で生徒情報の共有を図り機動力のある生徒指導を行う。また家庭との連携を深めタイムリーな指導をする。 ア、校門での挨拶運動とメロディチャイムの活用。 イ、制服改定２年目であり正しい着こなしの徹底指導を行う。 ウ、各学年の担任団で授業規律の指導目標とマニュアルを作成。 （２）個々の生徒を深く理解することを基本に教員のチームワークで生徒相談を推進する。 ア、人権保健部主催の職員研修の開催。 イ、各学期に１回、精神科医の指導を受けながらケース会議を行う。 ウ、必要に応じて個別の指導計画を作成する エ、広報活動などで活用ようしやすい環境を作る。	遅刻者の１０パーセント減少 服装違反者の１０パーセント減少 自己診断で授業満足度７５％以上 職員研修３回実施 ケース会議３回実施	（１）ア、１年生の遅刻者割合が増え、目標は達成できていない。但し、遅刻者に対する指導は徹底しており、今後も粘り強く指導を続けていく。（△） イ、制服について服装違反は一掃されており、頭髪やピアスの指導も進んでいる。（○） ウ、担任団で授業規律の指導目標とマニュアルを作成し取組みを進め、全体的には落ち着いた授業が出来ている。（○） （２）ア、職員人権研修は、３回目を２月に実施予定。中身も充実しており、欠席者もほとんどない状態であった。次年度も引き続き、教職員の課題を整理して取り組みたい。（○） イ、精神科医の指導を受けてのケース会議は２度になったが、発達障がいに詳しい講師を招いて研修会を持ち、次年度の個別の指導計画の作成につなげることが出来た。（○）
地域連携、小中高連携の強化	（１）地域にねざした教育の推進 （２）人材の育成	（１）互いに見学などを行い異校種の理解を深める。 ア、茨木市人権研究会・豊川教育ネット主催の公開授業や研修に参加する。 イ、小中学校に出前授業に出向き高校教育への理解を深めてもらう。 ウ、「福井高校を育てる会」の活性化 中３担任者会の復活 エ、「福井カップ」への参加者、参加種目を増やす。 （２）Ｙプロ（ヤングプロジェクト） ア、校長、教頭、首席、指導教諭で研修を実施。 イ、茨木市内府立高校若手研修を各校輪番で実施。	研究発表１回、公開授業参加を若手を中心に１回参加 ５校以上に出前授業実施 育てる会５回以上開催 参加者１０パーセントアップ 年間８回実施 年間５回実施	（１）ア、茨人研冬季研で実践発表、豊川ネット主催の研修への積極的に参加は予定通り（○） イ、出前授業も６校で実施し、若手・ベテランが状況に応じて授業を行い、中学校との連携を深めた。（○） ウ、「育てる会」も事務局会議だけで５回開催し、夏には中３担任者会を実施し、連携を深めている。（○） エ、福井高カップは種目・人数とも昨年並み（△） （２）ア、目標どおり充実した内容で８回実施し、全員が次年度担任を希望するなど成果を挙げた。（○） イ、本年度は前年同様２回にとどまったが、２回目は外部講師を招いた「ホワイトボードミーティング」を実施し、大きな成果を上げた。（△）